

人口減少待ったなし 未来を見据えた国分寺を



自民党新政会 本橋 たくみ

●人口減少問題について

本橋 出生率向上の取り組み、多世代同居の取り組み、待機児童の取り組み等を進めていくながら、それぞれの自治体の努力で人口減少に歯止めをかけていく必要があると考える。また生涯未婚率についてもしっかりと課題として捉え対策を講じていただきたいと考える。市) ご指摘の通りあらゆる政策を組み合わせながら努力をしていく。

●子育て支援の充実について

本橋 市では様々な事業で子育てを支援してきたが、いつどこで何が行われているのかわかりにくい。わかりやすい情報発信を検討いただきたい。市) 今後わかりやすい情報発信のあり方を検討していく。

●スポーツ施設について

本橋 けやき運動場の人工芝化を強く求めてきたが市の認識、現在の検討状況について問う。補助金申請の可能なスケジュールについて問う。市) 必要性は認識している。見積もりを取り、補助金を活用しながら進めて行く方向で検討している。

●ペットボトルの戸別収集について

現状の拠点方式では、地域によって拠点の距離の格差があり早急に戸別収集を行うべきだと考える。市) 平成31年度の実施に向けて検討を開始している。

●市内公園について

本橋 宅地開発公園等、市内には小規模な公園が増えているが、均一的で差別化がなされておらず、利用者が少ない。子育てに特化した公園や、健康遊具を備えた高齢者のための公園、球技専用の公園など差別化を図っていく必要があると考える。市) 各施設の利用状況を把握しながら様々な用途を考えていきたい。

●グローバルギャップ取得の支援について

本橋 2020年東京オリンピック・パラリンピックに農家が食材等出荷をするにはグローバルギャップを取得する必要がある、ハードルがかなり高いといった声がある。取得をしたい農家に市としての支援をお願いしたい。市) グローバルギャップについて研究し検討していきたい。

地域と人を支えるために 民間の力を生かそう



公明党 さの 久美子

1. 地域活性化包括連携協定について

さの) 10月に(株)セブン-イレブン・ジャパンや市内郵便局との協定が締結された。AEDの配置や「高齢者の見守り」の進め方をききたい。今後も民間の力を生かす取り組みを進めるつもりか。市) 両者に地域を支える拠点と人になっていただき、地域包括支援センターと連携して個別支援をしていきたい。市長) 地域に貢献したいという団体がおられ、それぞれの特色を生かす貢献を望んでいる。今後も積極的に進めたい。

2. 認知症対策について

さの) 自分でゴミ出しのできない高齢者が増加

している。ふれあい収集の対象になりにくい認知症患者の相談体制の確立を求めたい。深刻さを増す課題であり、ゆくゆくは介護支援ボランティアに担って欲しい。市) 地域包括支援センターと連携し相談体制を作っていく。市) 介護支援ボランティアへの課題として受け止めたい。

3. マンホールカードについて

さの) 12月、マンホールカードが発行されることになった。カードを入手するために国分寺に見えた方に市の魅力を感じてもらい、ふるさと納税につながる意欲的な取り組みを求める。市) 「日本の宇宙開発発祥の地国分寺」の認知拡大と市への来訪勧誘を積極的に進めたい。

4. 安全・安心のまちづくりについて

さの) 研究中の自治会サポートカードのサービス対象は生活に密着したものを選ぶ視点が必要。市) 市の産業振興の観点から利便性の高いポイントサービスの研究の検討材料としたい。さの) 子育てファミリー向け「地震防災ハンドブック」作成から3年。データ更新、HPにアップし、親子ひろばなど活用の場の拡大を求める。市) 冊子が目に触れる機会を設け、保護者が参加するイベントなどでも配布していきたい。さの) 宿泊訓練の参加者も減少傾向、市の総合防災訓練の位置付け、考え方を整理する必要がある。次回は夜間訓練の実施を。市) 時期、時間、内容を総合的に判断して訓練にのぞみたい。さの) 在宅避難への市の関わり方の一つは市民に知恵を提供すること。パッキングなどの講演会の実施を。市) 取り組みを進めたい。

良識から常識へ 骨髄ドナー支援制度を求む



自民党新政会 丸山 哲平

骨髄移植ドナー等の支援について

丸山 先般、白血病患者の方へ骨髄を提供するため入院してきた。その中で骨髄移植において多くのドナー候補が金銭的補償がないために提供を断念せざるを得ない状況にあることを知った。提供する可否かは最終的にご本人の意思によるが、金銭的理由で移植ができないという事態は社会として解消すべきである。当市には現在支援制度がない。早急に検討に入り、来年度からでも実施してもらいたい。

福祉保健部長 支援事業について必要性を認識している。他市状況を踏まえ検討を進めたい。**丸山** 検討にあたって要望がある。他市の支援制度は大半が期間を7日間に設定しているが、検査や入院を合わせ骨髄移植方式で約10日間、末梢血幹細胞採取方式では約2週間かかるのが常であり7日間では足りない。実態に即した期間設定を求める。目下、骨髄提供はある種の「良識」と捉えられているが、これを社会の「常識」にしなければならない。支援制度を設けることはドナー候補の決断の一助となるのみならず、当市にいらっしゃる白血病と闘っている方々へのエールにもなる。早急な対応を求める。

企業・大学連携について

丸山 当市のイベント等で現在学生をはじめ多くの方々にボランティアとして携わって頂いている。こうした動きを加速、広げるためにも市から感謝状や参加証等を出せないか。双方にとってより継続的な関係構築に役立つと考える。**市民生活部長** 提案内容はよくわかるところであり、大学等から意見聴取をするなどし、制度設計も含め研究して参りたい。

職員採用について

丸山 有効求人倍率が1.5倍を超え、人材確保につき厳しい時代となってきた。市では採用広報において、市報やSNS等を用いているが、これに加え民間就職情報サイト等へもアプローチすべきではないか。特にこれまで採用実績のない大学等には積極的に広報すべきである。**総務部長** 受験実績がない大学への広報は有効と考える。周知の方法含め研究したい。

その他 健康推進策、待機児童等につき質問。

障がいのある人もない人も ともに暮らすまち



国分寺・生活者ネットワーク 岩永 康代

■成年後見制度 現状と課題は? **岩永** 認知症の増加や障がいの者の親亡き後の支援の必要性等、利用の潜在的なニーズはある。わかりやすい制度周知と財産のない方への後見人等の報酬負担や、高齢化等による需要の増加への対応が課題。**岩永** 利用が必要な場合に助成が受けられるしくみを **岩永** 近隣市の状況をふまえて協議する **岩永** 組織で後見を担う **岩永** 法人後見の検討状況は? **岩永** 継続性や多職種での対応などメリットがある。社協と協議を継続する **岩永** チームによる連携した支援体制整備にむけ、計画的な取組が必要 **岩永** 円滑な支援が受けられるよう、計画の策定を検討する。

■学童保育所 七小の公設学童増設は、狭隘状況解消にむけ一歩前進である。今後は4年生以上も受入できるよう、民設とあわせて公設の更なる整備を **岩永** 課題として受け止めている。教育委員会との調整を図りながら進めていく。 **岩永** 民設の誘致が進まない現状がある。多世代交流や共生社会を目指し、高齢者や障がい者施設等との複合的な学童事業への補助等、参入しやすいしくみの検討を **岩永** 複合的な取組は非常に有効と考える。どういう事ができるか考えてみたい。

■産前産後の支援 全妊婦と保健師が面接を行う「ゆりかごこくぶんじ事業」は、行政とつながるきっかけや、家族全体の相談支援となっている。課題やニーズをふまえて地域の助産院や産婦人科等とも連携し、産前産後ケアメニューの拡充を **岩永** 必要性は認識している。既存事業の更なる活用や先進市を参考に、国分寺に適した事業を研究する **岩永** 今後子育て世代包括支援センターの整備を進める中で、夜間でも駆け込める場、相談できる体制等を検討いただきたい。

■障がい者施策 地域で障がい理解を進めるための取組を何う **岩永** 障害者地域自立支援協議会で市内不動産事業者との懇談を予定 **岩永** 重要な取組である。様々な業種に広げていただきたい。また、国分寺駅ビル公益フロア等に障がいのある人の作品展示や商品販売の場の設置を **岩永** 展示や販売は可能 **岩永** 職員の障がい理解を進めるために、実践的で継続的な研修が必要 **岩永** 対応要綱を全職員に周知して、全課全職員が障がいの者に対してしっかり対応できるように今後も務める。

会派の変更について

(平成29年11月9日付)

所属議員	中山ごう・岡部宏章
変更前	日本共産党国分寺市議団
変更後	無会派(日本共産党国分寺市議団)
所属議員	幸野おさむ
変更前	日本共産党国分寺市議団
変更後	無会派(ここに幸あれ)

※会派結成には、3人以上の所属議員が必要